

やまゆり

学校だより

令和6年1月19日
76号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」 「豊かな心の育成」

1・2年生が「三贈会」の決起集会をしました

1月18日(木)の6校時に、加藤輝さんを中心とした新生徒会執行部を中心に、1・2年生が「3年生に贈る会」の取り組みに向けて決起集会を開きました。

生徒からは、「お世話になった3年生に、成長の姿を見せ、安心して卒業してもらえるように、1・2年生全員で団結し、困難に挑戦することを決意」しました。

また、「感謝の気持ちを伝えるためには、本気・一生懸命さが大事で、それなりの発表ではダメだ」という意見も出ました。

3年生に感謝の気持ちを団結して伝える目的を果たすために、個人や学年、1・2年生の集団も成長することを願っています。生徒会顧問は、外川先生・三浦先生・鈴木先生で、学年職員や他の職員も全校体制で話題や状況を共有して指導しています。

※教職員は、三贈会・入学説明会・修学旅行、文部科学省のいじめサミット・入試指導・学年懇談会・テスト等の準備もしています。少人数で、複数の仕事を掛け持ちしているために負担も大きいです。そのため、連携し、時間や取り組み方等を工夫して活動しています。



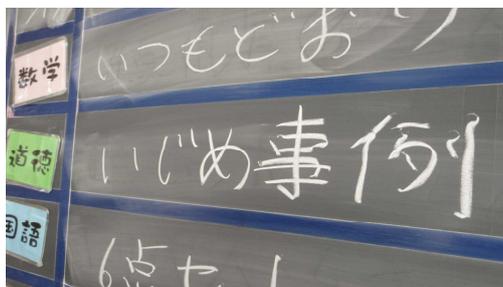
学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」 「豊かな心の育成」

「全校道徳」でいじめについて考えました

1月17日(水)に全校でいじめの問題について考えました。1月27日に生徒会執行部が参加する文部科学省の「全国いじめ問題子供サミット」で使われるSNSのいじめについて考える教材を使って、各学年ごとに道徳の授業を行いました。自分にも起こりうるSNS上のいじめ問題に対して、各自が自分の意見をパソコン(端末)を使ってまとめ、その意見を交流しながら学びました。

自分のこととして捉え、多様な見方や考え方に出会いながら、より良く生活するための判断や実践意欲を高めることができました。

今後も、他学年とも意見を交流しながら道徳的な実践力を高めていきたいと思えます。



1年生 各自が端末を使って自分の考えをまとめ、多面的・多角的に考え、話し合った



2年生 いじめの定義の理解やSNSでの誤解の原因を探り、いじめ防止について議論した



3年生 個人で考えた後に、グループ協議 多様な意見を聞き、より良い生き方を考える



学校教育重点目標 「居心地良く、やる気のある学級づくり」 「豊かな心の育成」

「いじめ」に関する指導にご理解とご協力をお願い致します

本校では、全校生徒28名の小規模校の良さを生かすためにも、いじめや不登校を防ぐ努力をしています。学校教育目標の重点項目の第一は、学級の「安定と活性化」による一人一人の生徒の「心理的な安全性の確保」です。

そこで、いじめに関する生徒の実態調査を行った結果について紹介します。この生徒の実態をもとに、教職員、生徒、保護者、行政、地域等が一体となって健全な生活・学習環境を創っていきたいと思います。

令和5年度は、いじめ問題にPTAも関わって努力している点等が評価され、文部科学大臣表彰も受賞しました。1月31日(水)には、富士・東部教育事務所の指導主事を招聘してPTAのいじめに関する研修会も予定されています。以下の調査も踏まえ、ご理解とご協力をお願い致します。

道志中学校の生徒のいじめの調査結果の一部紹介

「現在、いじめの認知を持っていて、訴えている生徒はいない」と思われます。

1 「いじめの定義」について知っていること

○加害意識の有無にかかわらず、被害者が「嫌」だと感じたらいじめは成立する。

○いじめは、「被害者の主観」で成立する。

考察 生徒はいじめの定義を全員理解しています。「いじめは悪」とは一概に言えないので

す。ハラスメントと同じで、誰もがいじめの被害者にも加害者にもなる可能性があります。

実際に今までの小学校からの学校生活で、いじめを認知している生徒は大勢います。二

度と嫌な思いをしないように、しっかり学習して高校でも生かしてほしいと思います。

2 いじめられた人(被害者)も悪いと思うか

○相手に非があっても、いじめが許されるわけではない。

○どんな理由があろうとも、いじめは許されない。(上記意見複数)

●いじめられるような原因をつくってしまったから、いじめられた人も悪い。

●いじめられても仕方の無いことをしてしまった人は、いじめられても仕方が無い。しかし、「うざい」等の理由でいじめをすることは良くない。(同様の意見も多数)

考察 「いじめは、どんな理由があろうとも許されない」、「理由によって、人をいじめて良いなどということはありません」という多数の意見の他に、いじめられる人も悪い、それなりの理由があるからいじめられるという意見も多数あります。
「いじめの問題は学校」だけの問題ではなく、「家庭や地域の問題」でもあることをご理解ください。この話題については、是非ご家庭でも話していただき、家庭での教育をお願い致します。学校でも重ねて指導致します。

3 小学1年生から現在までの中でいじめられた経験はあるか

○いじめられた経験のある生徒 多数

○いじめられた時期

・小1～中1までが多い。(長期の生徒もいた)

考察 「いじめられたと認知」している生徒は多数います。また、いじめてしまったと認知している生徒もいます。さらに、いじめられ、いじめた経験のある生徒もいます。
だからこそ、今後も指導が必要であり、生徒自身も取り組む必要があります。

4 いじめを受けた場合に保護者や家族に相談するか

●相談しない意見 多数 ※保護者や家族に相談すると答えた生徒も多い

理由

- ① いじめのことが大騒ぎになるのが嫌だから
- ② 親同士の喧嘩になったりして困るから
- ③ いじめた本人も知り、その後ひどくなってしまったりすることが心配だから
- ④ 「結局、私が悪いと言われる」と思うから
- ⑤ 親に心配をかけたくないから(複数)
- ⑥ 親に相談しなくても、先生が解決してくれるから

考察 生徒の気持ちに寄り添い、円満な解決に向けた冷静で適切な対応を保護者や教職員に望んでいることが推察できます。

③については、「加害者の仕返し」を恐れていることにより、相談しないという理由です。仕返しを心配している気持ちに寄り添いながらも、保護者や教職員の連携した適切な指導により、仕返し等が絶対に無い指導をする必要があります。

④については、「あなたも悪い」、「気のせい」、「大したことではない」、「後で・・・」等の対応はいじめ指導においては「不適切指導」とされています。「味方になって守ってもらえる」と生徒が思える関係づくりを誰もがしていく必要があります。

⑤の意見は、どこの学校の生徒にも多い意見です。しかし、死ぬほど苦しんでいたことを話してもらえなかった家族の気持ちを、生徒に理解させることも重要です。

⑥教職員が信頼されていることは、有り難いことです。しかし、保護者に相談できる関係を構築することは大切と思います。

今後の学校生活を安心・安全に送るためにも、適切な対応をするためにも、ご理解とご協力をお願い致します。